

「札幌市障害福祉施策に関するアンケート調査 回答用紙」

お名前 さとう 右司

記入日 3 月 17 日

所属政党 民主党

選挙区 西区

＜アンケート回答記入欄＞

(Q1～Q9は対応する設問の選択肢番号(例:①)を中欄に、その回答理由または、「その他」の回答内容は、右欄にご記入ください。)

Q1.	A-1	雇い育て上や育成は必要ある。暮らしことは、障害者も当然の権利としてある。これからの福祉は、「上や育成」が重点。
Q2.	A-1	雇われたい人の中で、有給やサービスを受けるためには、当事者のニーズにどう応えるかである。雇い育ての中での。
Q3.	A-1	雇い育ての便りには必要である。しかし、障害者も高齢者も受けるサービスは適当ではない。応えを4人入に同じに負担とすべき。
Q4.	A-1	通学、通戸、通働に必要ないことが問題である。利用者の利用の仕方により、利用者の負担を減らす必要がある。
Q5.	A-1	当然のこと。当事者の声、上や育成の声を施策に反映させる。
Q6.	A-1	個人負担や家族の負担が少なく、教育は公的サービスとしてあるべき。
Q7.	A-1	行政がまず負担とすべきである。とりわけ、札幌市の障害者雇用率にたいして思う。
Q8.	A-1	早期の対策が必要である。国の取組みをまわりのでなく、札幌方式を生み出していくべき。
Q9.	A-1	当然のことと思う。
Q10.		障害者福祉、高齢者福祉と分けるのではなく、言語も同じである社会保険制度が重要である。 そのために、上や育成の本業とよりの労働力生を本質にした、分業型福祉を推進していく。